

I 総括的概要

宝塚商工会議所が誕生して以来、新生脱皮を大きな旗印として運営してまいりました。発足当初は阪神・淡路大震災により損なわれた都市産業機能を再生することが使命でした。その次は地域全体を覆う不況感。どれも大きな課題であり、長い忍耐の時代を経験いたしました。ようやく日本経済も回復の兆しが訪れ、気が付けば戦後最長の好景気とのこと。しかし実感がありません。実感しておりますのは発足以来営々と築かれた会員相互の信頼と扶助の精神です。

本年は商工会議所活動の基本であります会費基準の一元化に取り組みました。多くの会員の皆様のご理解のもと19年度より運用を開始いたします。ここによりやく名実ともに経済団体として会費負担の不公平を解消し、発足当初に会員の皆様と交わした目標が果たすことができました。

地域唯一の経済団体である宝塚商工会議所により多くの企業に参加いただき、多数の皆様の協力のもと組織を挙げて強い地域づくりに取り組む基本的な基準整備を推進した一年でした。

真の意味の回復を実感し、持続的に地域社会に活力を生むために、会員の皆様並びに関係各位に理解を深めていただいた結果、大きな混乱もなく事業遂行上支障を来たすことなく達成することが出来ました。これも一重に会員各位の理解の賜と深く感謝する次第です。

平成18年度重点事業として計画したものに対する主な成果は次のとおりです。

1. 宝塚経済活性化の政策・要望活動の積極的展開

(1) 「宝塚市産業活性化推進会議」の運営 (P65～P67に掲載)

平成17年度・18年度の2カ年にわたり産・官協働して推進会議を運営、工業・商業・観光・ビジョンの4研究部会を設置し検討報告書として産業の施策等をまとめた。今後検討報告書を元に具体的施策として実施を前提に運営する。

2. 産業活性化策の積極的推進

(1) 会員ビジネス交流事業の促進

① ビジネスマッチング事業の開催 (P68～P69に掲載)

昨年度より実施した「異業種交流会」「会員ビジネス交流事業」を総合的に事業化、会員相互の英知の結集、優れた産業技術・技能の製品化等、地域内での産業化の気運醸成を図った。また、広く地域内の産業を内外に周知することを目的に「たからづか産業見本市」の開催に向け調査・研究を行ったが、開催は次年度へ延期とした。

②空き店舗等情報発信事業 (P70に掲載)

市内に点在する空き店舗・空き工場等の情報を集約し、会議所ホームページ上に公開した。創業・起業を促進し、また、市内での移転等業容拡大や進出を目指す企業を支援することを目的に運用を開始した。

(2) 創業・起業支援事業の促進

①起業・創業支援セミナーの開催 (P80に掲載)

宝塚市内で起業・開業予定者を対象に実施。起業から事業開始及びビジネスプランの作成等を講習した。市内での起業・開業予定者を育成し、支援することにより市内商工業の活性化を図り雇用促進を促す内容で実施した。

②「創業塾」の開催 (P80に掲載)

「起業・創業支援セミナー」のフォローアップ事業及び新規事業や新分野進出を促進する事業として実施した。

具体的な事業計画等を有する者、または現在の事業の転換等、いわゆる第二次創業を図ろうとする事業者を対象として、より実効性のある創業・起業を支援するセミナーとして開催した。

(3) 宝塚ブランド品の発掘と創出 (P67～P68に掲載)

宝塚市に既にあるブランド品の掘り起こしと、宝塚市で産出される素材をベースに商品開発の可能性の検討を行った。また宝塚全体のイメージアップを図り、広くPRすることを目的として、それらを宝塚ブランド品のガイドブックとして作成した。

(4) 地域商業ソフト強化事業 (P70に掲載)

中小企業相談所の重点事業として、市内商業団体指導を実施した。事業内容は「一店逸品運動」「商人塾の開催」「繁盛店創出」を展開し、市内商業団体と団体を構成する個店の活性化を図ることを目指した。

3. 産業活性化策の積極的推進

(1) 会費の基準と組織の見直し (規約改正はP4～P10に掲載)

商工会議所移行時に公約した会費基準につき、一元化について総務常任委員会へ検討し、平成19年度より統一した会費基準表により運用開始することとなった。本年は全会員に新しい会費基準の適用につき周知に努めた。

平成18年度中に会員継続の確認を併せて行い、構成された会員企業の活動が効率的に果せるように組織の再編成について検討した。